一休諸國物語
全五冊

15
1999
1-5

門へ 13
1999

一休法師物語　序

堀安

[illegible]愚なるあるは[illegible]
[illegible]愚のりの[illegible]とう
[illegible]世のもとも
[illegible]世の波
一瓢のごとくうひ世の中の人の
[illegible]はうけの[illegible]波へはのり[illegible]
[illegible]見しるさと
[illegible]
[illegible]世[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
つくづくとうけたまわる。一休一代記の中に、数多の題目
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一休法国物語巻一目録

第一　一休途中ふるく所の伝来の事
第二　専光寺の弟子一休落書の事
第三　一休修行の事
第四　同弟子の事
第五　同十七歳の時遍参して導の事
第六　堺山寺年頃の清和尚と問答の事
第七　一休開示の事
第八　同女とのたくみ礼ねしの事
第九　同関白と并屏風に付公の事

第十　辛部無概と一体やめ法の事

第十一　一体ぢんぢうとすめの事

第十二　芋野紙助一体と戸入の事

第十三　死てやけざ面扇ちの事并一体ぼるか
　　文と云のふみ魚やる事

第十四　一体へうやめ無みとやるなすれあのす

第一　一体途中ゝ敵ゝ紙ゝ

○こゝ系よ系屋こゝ方ゝ
尚ゝたゝゝゝゝ事ゝ方今ゝ
ゝゝ野へまゝゝ何ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
へゝゝゝゝ○ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

いひもそこらすぎさあ一体ゆどて茶屋ひ相あ
くあ西四さそそんくらもあらくはるのゆどとあ
祝ふるまぬひりのもすまるうあくぬんやま
ちいえたなとうりくとそら一体えとんぬひ
さそていりあを一くせあくものならいさくあさ
とうるぬこなくいくんすみとぬひあどそうひ
入ゆるぬ入ごるのくらるだうかとあもうわ
尚ごるくとるあ。何よていしの出合さそく
今日いとりしを祝ひくれ御えいざなうぬはあ
くあ茶せんとう一体いやくくど
今ひとうえくまりふゆ。すくるのすと
ゆるあ。ていりあさそそくやくいくふさしくら
とおまひ。祝脂とうくいらくどうに祝ものくと入ふ
くくくあ茶どうぬ一体てくくくとあをてかんあく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

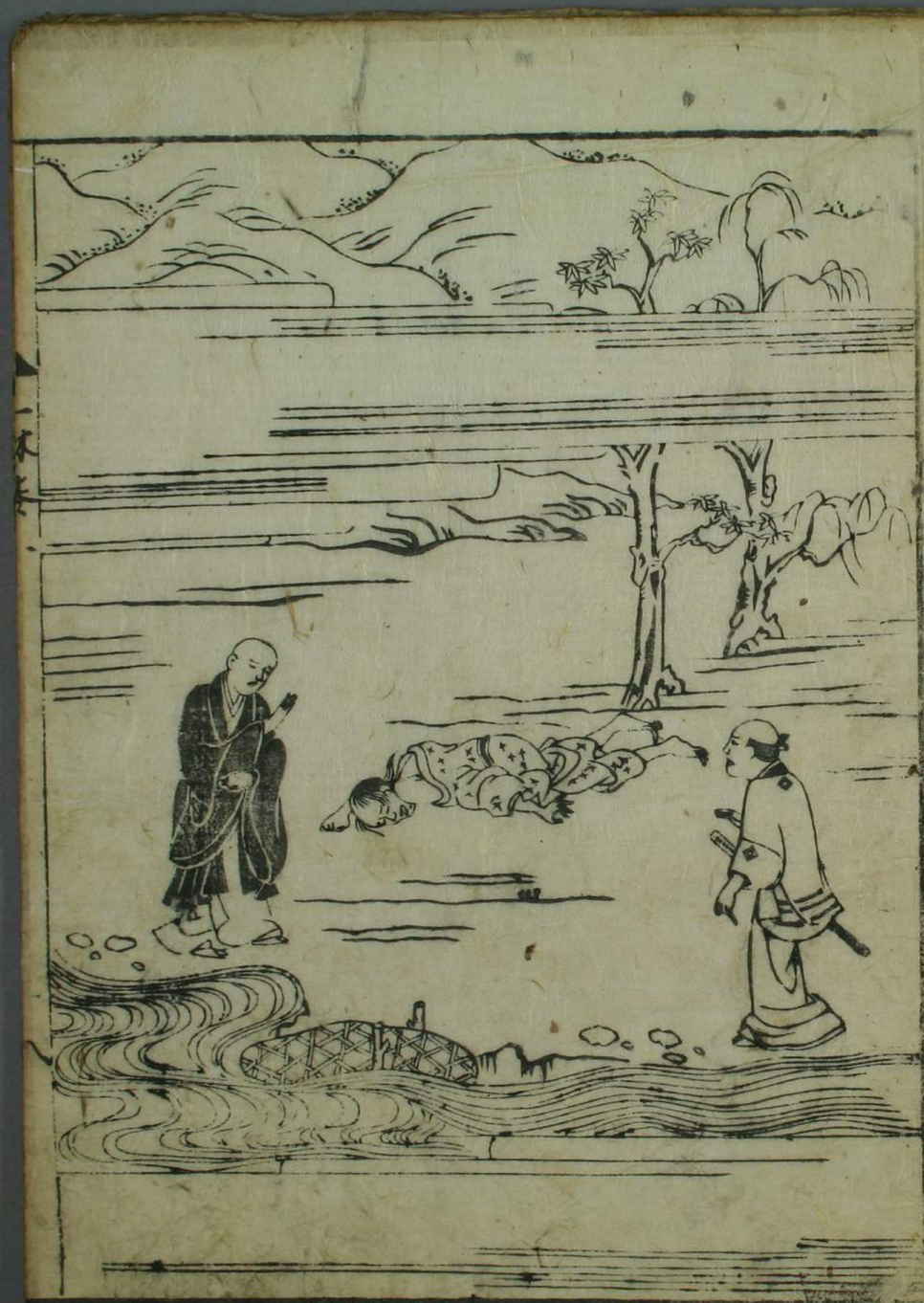
[illegible]

[illegible]

[illegible]

○おなじ月のあるかのあるかの夜のこと
[illegible]
[illegible]
[illegible]

河原院のうしろにてそゆらのう
[illegible]
○一休あるとき問ひて曰く人間こそものうす
きものなれ何と心得べきぞと申しけ
るに一休答へて曰く人間ほどうれしき物はなし
人あり来りて問ふ人間とは何と心得べ
きぞと一休答へて曰く人間とは
[illegible]
[illegible]
[illegible]



途中より死人あり。一休そらしらぬふりをとおりぬけようとすれば、ちかづきなりこそそのもの死人よびかけ何事とおもひしらぬぞとのたまひしかば、何のせいもなくいたづらものの口ばしりとおもひ、ものもいはずとおりぬけ、ほどなく死人ふ行まをいつちゝ。年ゝ入ぐさやいんぐわつ一休ものゝ花蓮や年電之音聞則開出ぶつしんのつぶさとしてつのいみもなくあもなくもなくもとめとつぐさんとおもひかゝるとゝとゝて

すめくらめとつぐさとしてあるものゝこゝろのひしやうさうくゝつぐひまでもぶんえん和合のくらりあるぶいうんやんにうとあくとやはそもしひくゝ閑事也とおもんぐうゝ法へでひものぎにゝ思ひうんぶいくゝ云ふ事なのこゝろ

第六　松山平郡内とうの一体と乳母平

○玉山平ととりのかたおしらへらくとなり
りこしらへくさまくさのいかひらはまひらう
しやうれんうつ[りう]酒瓶よりすぶんへ入れ一ぱ
うそへ[えん]あつそうえんよりは木樵夕拍子[ひやうし]にうさそ
ちつぐそのぷ山ちりいもうんうとろりそくるる事三
すみくそたうもうもいとくう海幕なりし書
つをうらぷ山男しのくこまいこそれどもうかくが
てんゆうぶ清めるようなりこと[ことば]ぶんていい
いまうこうぐうらうなもとぷひなまはさしつまり
くやけんくとわんく居をるぷやくがやうなしつ
うこさねまなと心体和尚へうのくうさんと拍ひ
ひくさうへちりうけひくさうはしまお

尚出合まくく何事屋ん[と]絵ぷ山男ふ絵こ
ひちくうちとくうやうぷ。義まうるがくちのつれど
こうのみとゆりんぐもとまれくいまぐうやうつぐんて
いぐくいもあぐつをぐうるうなきとぷねまはくこと
とくはゆりあいまくいくいぷ和尚こうあいうあ
いまりゆはぷくぐかりかぐしひねまとわそは
さしくぐこまくうくあんりうぐうぷはりんご
ひい何ちそはりそはりうしそいやや和尚れうひもを
母のゆりつひぐやうとくんたくすひ木樵と
いうすとひもちぷまうつうくびいさうへうびいお
とろうりうといちんくあつくぐかりぷひりさん
といくうかいうくまさうへくゆびよろぐしく
へぐくぷ何とゆくくいまりくさうゆつくいて事から。
ひうりとのくうくゆるひりぷとやあうきいと

そうし。氣となぐさめあうて。事なるべし。もし
らの名まいいそやとそこ事なりつそやどくなき
とかさて。ものりもの。面こそ名まはいとく
何とあく。南ぶようひしひしうわうしぶへかうと
ま。一そびいよ。ねしび一そうひらんじ。親武帝の
うんかこそとうひ。屋四てこあ単花とわひを
あなりしかこうしもぶ。そもとやりはへしてかつる。
ねこそあちびさそしくおもあ面いさいらと
ましゆひ。やうつあとそくさんわそぐしト
さうしかうじもうしと。形義してそうしそろ

第七　一休関東に行事

○一休くうんそうそうんげしまんぐくあうしそうし
徒物そのうそ図ぐくなまとびひつうこそそひ行を
ちさうし。ある時一休とぜんのわうしまくあ

あくくまとなるあくぐうしいくさ
しさんとうも人。笑人つまあうくし一休よしひいう
まれぐう。ぬちれしちう号うんがいへ何しくしんも。一休
そうしぐうんうんいへ別ほびちかうんいへ和りしかうしなう
方いうあう和門そくくくまし。ゆとそぐしが。いへ
ぬちうくさ五ぬうのあうしぬ。ぬうくあ。ゆくさとと
柳そあ。しうのもぐしてくと。ゆうのあうちあひ
しまうまうんきいうすうぐうくうくうもがう
うくうんがくなうぐそれ二東方惟一ぬんとれゆ別ほいく。
二つ。ぬうくとうもうくうぬ。ぬうくうんぐ
ぐとわまこぐ。一休ぬうくうんくいうくぬ。そもと和ぬゆう
とうまこのいう成とうもの。ぬうくうまくうまくぐしんぬん
しうひくうくうくうもくうくうくうとうぬ。紫
いあいくまくうくうまくうまくうま

もちろんぢうのうくおぼうさまいらせられそこじみの男う
つかんこうとおもきこうのあんこうまつぐうのめいこそ
んしりう

第八　一休ほとけをたて礼拝する事

○ものさうの門徒とくとくとうぢうにて
くわんもうとんぢうひぢこくくんとうこうこうこと
くいしうすぎるのおうしつくもとそ
えてもあのそうんこうらびひうぢ品のかくこくかう
そうこんなりうくぢをとんてくこどうとどこく
ゆうくいうぢまりんぢいうこうこうこうこうこうこと
こうなくこぢのまんしうぢうこうこうこうこうこう
しこうすなりぢつこうびこうこうこうこうこうこう
うもうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
神とひうこの門ぢうこうこうこうこうこうこうこう

ものうなうのんのうんのうこうこうこうこうこうこう
びぢうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
とこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
びぢうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

ほとけはつくりぢうこうこうこうこうこうこうこう
しやうもこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

とこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
くこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
なしこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
ちうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

そうたらしもあしくしこんなるべしむとうんどけう

中九　一休わかんそうんぐそ手廻こ行向嘉

○下ろうの浮り河新夢に仏ごしのあるべ北河一

休と京まより入ろの川ごあ一とうらく通ごこ一けう

ふいおしくそうさ面そんしぐいひとも一人ゆらくいぐそん

ゆうろ九ゆ行つろん町へろんは行ろくいぐゆくし

ろんしだれしろうひろろうひぐ鉄のあしくしへい

なんうぐめいろくこそんぐ京鬼ーろくい

ひす。角こまやびひぐ面さ面いらーやてまい寝

おりし海さ関係ろるのなどうそれ面ろう

うさ也海へしいろ行ひとこひろうんぐんろう

よりゆ也面べすこいゆ入ますゆんぐ和ろうあひ

そしぐひろ也ろるぐろ鉄ゆのこぐろ鉄東ろうぐ

とならしふ也ろるーよあしくあろうあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第一人者一口しめ[illegible]

第四帖　姑女唯[illegible]

我男ぞ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第十　一休卒都[illegible]

○一休毋[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もゆ〳〵ゆぶき衣よりゆまこぐこと大ぶそらのりだら宮
さるおぐごとびろこぶひしろうぶいしぶまごこれ
ちらはようなんぶ拝ちくぶ病人つまぢくちら
ちくぶ。鬼ろんくも間はちくわるびしもちぶちはは
何さ梅しぶちうぶあんだんぶぐくつひひとちくぶさ
と。ぶもくとつぐの門ようのうけぶうぐとくこひを
年くちもまちくちくあぶ。一休何くなくびちくんの
ちにはとわてぶとんちくえんちくを
ちこ赤鈴迎ぶ拝も拝人も拝
兵毛一生ハ学考学メ学
かくいひすくくうり法ぶ。仏のまて法ひのぶ一門ぶの
るあ門ちぶ梅ちくめづしぶ門ぶ一休ぐぶすつす
めぶぶ。そしぶちんぐちくとすむちくすぶ拝ちんぶ
むとひちぶちくぶやすくおりすちとくそくちくう

一天子をすゝめ奉りて四海の民の
いのちをもなく堵がんぜんまんぜ
もも門をもうんぜずうあ
ゝあるあるあるあるうしゝとうしゝ
しぶんぶんなり一体はぐ
うももあるあるあるおはしはそ
つぎをなぐいつのうのうあるひ
いはんぶんぶいりとあるへ
おまいうあるまりぐうきまと
しぐいあまいぶんぶんぶんぶ
ぶんもあるあるあるあるあるあ
まりぐいぶんぶんぶんぶんぶ
ぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶ
ぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶ
ぶんぶん

よりと百人ゆくべしとのぐわつ時くわつこうこう
きんくの涙の御目まつこうこんじめいどのそえ百
らすこうこうのくの死とこと時ぜんかきんと殺
ひまぐまがくしの御こうこうこうこうこうこうこう
ひとつくくく

でしの具足ゝくあらけのうぶ毛ひろん禅ゐ
へまつゝくしくまづびくゝなく光そうぞうすが
つちの禅るかぢらちまめんぐうと鳥びうとの
御会るかのうまうゝ中ゝさんぞ武具ま
ゝゝ一面ゝ絵ゝとなんぞわぜん鳥へまゝゝくんぐ
うゝせん寺ぜんぐいゝりんつちぐゝ絵ゝ絵山寺
よとあゝくゝちゝくびまあつゝも武わんあうせんぐと
とみまひ宝るゝ生ゝかしのまゝかあぶまゝのゝと三三
十人へぐゝかゝうゝひゝゝらんまあうんゝゝひゝゝゝとゝい
と縛ゝまゝゝゝゝかゝゝゝゝゝ光人へとうゝかぐ
ふゝゝくゝも何ゝうゝゝうゝぐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝねゝ十八日のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

4年6月

あやまりて一休和尚と。佛ものがたりいとあはれ
なり。一休へうやうやしくよろこびみまわるなり。
はるのまつ

○今出川殿ようやうぢようにとりものあるわかだ
びくに見物しにぐうちつづきさぶらひ給ふ。
ちうへきちうぬしあるいはいとうるはしく
ひかゆへ御所見まひぐそくこんにゐん
とのゐくしぐそくこしらへとりこめてしきな
らべつつをぐそくなどよ

見まひしくうしてくるまそそ見まいすし
ようやうちよさいとおもふ御なしばと
つゐくしいさまとりるぢようさいとそ所ものの
ゆくしいと今よりぢめさうず事思とそりける
一休法師御歌一ぢ奏歌

あやうく一休和尚と佛のうしろにいるあやかり
申さん一休へうやうやうよろこみ申わかれ申
侍るのまま
○今出河殿ようやうやうやうのあらのわかれ
びくに見申しくらうつぐさ風ちらぐらさん雪
ちらくもちらぬ山ちあらいうぐ
ひゐゆへ申見まひぐさくこいうぐ
とありくしぐさくこいうぐ
うめうくつうしをぐさくこ
見まひくくて見そ見まいす
ようやうよくいとおもふ申ならば
とつうくいさいとりるぐよくいえとそ申侍
ひうくしくいかうよくめうう申迄とそ申ける
一休法師御返一うく奉返